

## “平和の祈りを生ける” 広島市で展示。華道家元池坊×立命館大学国際平和ミュージアム 第 58 回広島平和美術展にて開催

8月2日(木)～7日(火)まで、第58回広島平和美術展(主催:広島平和美術協会)が、広島県民文化センターで開催された。広島県、県外、外国からの出品作品として、絵画・彫刻・書・写真・いけばな・工芸作品など、272点が展示された。

立命館大学国際平和ミュージアムは、1992年5月、世界で最初の大学立の平和博物館として設立され、本年度開設20年を迎えた。今回、初めて立命館大学国際平和ミュージアムと華道家元池坊と共同で、特別展示「平和の祈りを生ける」を展示している。これは、本学文学部の木立雅朗教授が研究する陶器製手榴弾に、平和を希求する思いを込めて、平和の花を生けてほしいと池坊由紀次期家元に相談し、ともに「平和」を希求する想いに共感し、共同企画の展示が実現されることとなったものである。

今回のいけばな作品では、夾竹桃が生けられている。原爆で被災した広島市で、原爆により長年にわたり草木も生えないといわれた焦土に、いち早く咲いた夾竹桃の花は、広島市民に復興への希望と光を与えた。1973年に、夾竹桃は「広島市の花」に選定された。その夾竹桃の花に平和の祈りを込めて、池坊由紀次期家元がいけばな大作を生けられた。その横に、国際平和ミュージアムと文学部考古学文化遺産専攻で收藏する陶器製手榴弾による「捨てられた陶器製手榴弾と平和」と題した展示が行われている。この特殊な「やきもの」の歴史を知っていただき、火薬でなく花を生け、平和な世界の実現に向けての願いを訴えている。

8月2日の同美術展の開幕に先立って、オープニングセレモニーが執り行われた。松井一實広島市長の挨拶に続き、木立雅朗本学文学部教授が開幕のテープカットに出席した。松井市長は、「平和は大げさなものでなく、努力あって大きな果実となる。日々の行動を絵や花に託し表現し、行動することが大事である」と挨拶した。

同展では大勢の市民が見学を訪れ、夏休みということもあり、子どもづれの家族の姿も目立った。開幕初日は、木立教授とともに展示準備のため参加していた文学部学生2名により、実物の陶器製手榴弾に触れてもらって解説するなど、興味関心を持って見学を行う様子が見られた。

◆第58回広島平和美術展 華道家元池坊×立命館大学平和ミュージアム特別展「平和の祈りを生ける」

会場：広島県民文化センター（広島市中区大手町1丁目5—3）地下展示室

日時：8月2日（木）～7日（火）10:00～18:00（ただし、6日は8:30会場、7日は17:00閉場）

入場料：大人300円、小中学生、被爆者の方無料。

なお第20回8.15国際平和美術展（10月7日～9日）での共同出展も予定している。

（主催：I・P・A実行委員会 会場：東京ドームシティ・プリズムホール）

## 参考

### 陶器製手榴弾

陶器製手榴弾は、太平洋戦争末期の物資不足のなか、急遽製造された武器である。1944（昭和19）年の夏ごろ試作され、その後本格的に生産されたといわれるが、製造期間は1945（昭和20）年8月15日までのわずか1年足らずであった。（出典：「陶器製手榴弾弾体の考古学的研究」立命館大学文学部学芸員課程研究報告第12冊 2006年）

### 広島平和美術展の趣旨（第58回広島平和美術展のリーフレットより）

※ 戦後10年目の1955年8月、第1回の広島平和美術展が開催されたときの趣旨です。いつの時代においても戦争は文化の破壊者でした。

核戦争がはじまれば、人類の絶滅を意味します。

芸術が人間のためにある以上、私たちは芸術を愛し、戦争を否定し、戦争につながるすべての政策、企て、準備、実験などに反対します。

特に広島を生きる私たちにとって、それは強い共通した願いです。8月6日を中心に集まり、作品を通じて世界平和への願いを表すために、総合美術展を開き、世界恒久平和を実現します。

1955年8月



「平和の祈りを生ける」展示の様子 左は見学者へ解説をする本学学生



陶器製手榴弾の展示の様子



世界遺産：広島平和記念碑 原爆ドーム（2012年8月2日撮影）